

あかべこ

akabeco

別冊

GAP生産者紹介

ふくしま。GAPチャレンジ

福島県環境保全農業課



美味しさの秘訣は気候風土だけじゃない 本当に喜んでもらえる果物をつくりたい

福島県福島市

株式会社 ABE Fruit

FGAP/ASIAGAP/JGAP認証取得

もも、りんご、ネクタリン



お客様に「美味しい」と思っただけのように、「研究を重ね、課題を克服し、チャレンジしていくことを大切にしています」と語るのは、ABE Fruitの代表 阿部 秀徳さん。福島県福島市で、ももとりんご、ネクタリンの栽培を行い、FGAP、ASIAGAP、JGAP認証を取得しています。ご家族から農家を受け継ぎ23年。秀徳さんが就農した代より、ももの初期育成に力を入れて取り組んでいます。ももは、大きさ・甘さ・形にこだわり、果肉の緻密さ豊かな香りがお客様に喜ばれています。



阿部さんのこだわりは、花のつぼみを摘み取っていく摘蕾(てきらい)です。摘蕾とは、果実の生育をよくするために、余分なつぼみを摘み取り、より多くの養分をひとつの果実を集めるための作業です。

樹に蓄えられた養分は限りがあるので、その限りある養分が十分に行きわたるように、いくつの花を咲かせるか、いくつの実をつけるかを考えながら、摘蕾を行っているそうです。

「樹は生物なので人間と同じように個性があり、全部同じようにいきません。樹の個性を見ながら、お疲れの状態であれば多めにつぼみを摘み樹に負荷をかけないように、成長過程であれば少し負荷をかけるように作業をしています。」と阿部さん。樹は大きく広がるように育てられ、葉にまんべんなく日光を当てることで、栄養を蓄えています。

一年に一度の収穫。収穫の時期に結果が出るのが楽しみでもありますが、近年では天候によって変わるところが悩ましいご様子。「大変なのはどの仕事も一緒ですが、その中で、もがきながらチャレンジを重ねて、お客様の声を大切にすることを一番にしています。」と阿部さんは話してくれました。



<https://www.muji.com/jp/ja/store/cmdty/section/T50001>



ABE Fruit
<https://gap-fukushima.jp/user/p170027/>





合言葉は「うまくて、でっかいの」 美味しい！の笑顔を届ける

福島県福島市
鈴木農園

FGAP/JGAP認証取得
もも、りんご、ぶどう



福島県福島市でもも、りんご、ぶどうを育てる鈴木農園は、2017年にJGAP認証を取得。環境保全や持続可能な農業への取組を強化しており、圃場で使用するプラスチック資材の削減や農薬使用量の削減を進めています。中でも、プラスチックの自然環境中への散乱には注意を払っており、例えば、ぶどう栽培で使用する誘引テープは90%以上をビニル製から紙製に置き換えています。紙資材はコストや使い勝手の点でビニル製に非常に劣るため、このような取り組みは他ではあまりないことです。他にも、剪定枝のチップ化など、自然環境にやさしい農業を実践しています。



鈴木農園の果樹栽培は1950年頃、初代がお米や野菜に加えて、ももの栽培を始めたところから始まりました。現在でももも、りんご、ぶどうを栽培しています。現園主の鈴木満さんは県外でエンジニアをしていましたが2016年に地元に戻り就農、先代と農園を経営しています。

農園の合言葉は「うまくて、でっかいの」。大きく美味しいのはもちろん、安全性や環境にも配慮。食べて幸せを感じ、笑顔になれる果物をお届けすべく日々励んでいます。そのためのごדわりは、量より質重視の栽培。例えば、ももの摘果(てきか)。果実の生育をよくするために余分な果実を摘み取る作業で、収穫2週間前の作業では、一般には1~2割を摘果します。鈴木農園では3~5割の実を摘果し、種に異常がなく、美味しくなりそうな実だけ残すようにしています。また、りんごでは、着色を良くする為に、果実を日陰にする葉を摘み取る作業をしますが、この時に摘み取る葉を最小限にしたり、最後まで葉を残し、養分を供給する「葉とらずりんご」栽培に取り組むなど、味が濃く、蜜入りのよいりんごを目指しています。

その他、土壌分析を行い、その結果をもとに有機肥料と化学肥料を組み合わせることで環境負荷の少ない施肥をしたり、その年の天候や果樹の状態に併せて農薬の使用量が最小限になるよう工夫したりと、環境負荷の小さい、持続可能な農業に取り組んでいます。



<https://www.muji.com/jp/ja/store/cmdty/section/T50001>



鈴木農園
<https://gap-fukushima.jp/user/p170019/>





「収穫したものは全て無駄にしない」
ふくしまならではの果物づくりを目指して

福島県福島市
有限会社 あづま果樹園

JGAP認証取得
さくらんぼ、日本なし、ぶどう、もも、りんご



多くの果物の産地として“果物王国”とも呼ばれる福島には「フルーツライン」と呼ばれる道路が福島市の西側、吾妻連峰の麓を走っています。あづま果樹園はこの道路沿いに位置し、「フルーツライン」命名のころから代々続く農家さんです。お父様の代で観光に特化した農園になったそうですが、現在もたくさんの方々果物狩りに訪れています。吾妻さんが後を継いだのは23年前。福島県の果樹試験場で、果樹について学んだことで、農業を職業として捉えるという新たな視点を持つきっかけとなり、農業に取り組みはじめたそうです。



あづま果樹園では、もも、ぶどう、さくらんぼ、なし、りんごといった人気の果物を育てています。これは福島市が盆地で夏は暑くて、冬は寒いといった土地柄が気候的にも恵まれており、果物が美味しく育ちやすいからだそうです。福島県ではりんご、もも、なしなどいくつかの果物を育てている農家さんが多いようです。

果物は種類によって手入れの方法が異なるので、適時期に適時作業を行う為に農園の皆さんで協力をして作業をしています。福島県は、一つ一つの産物は生産量1位ではないかもしれないけれど、果物それぞれの特徴があり、品質の良いものがたくさんあります。そういったものをご自身の手で丁寧に販売しているそうで、現在は店頭が中心ですが今後はネット販売も再開して全国の方へ届けたい、と吾妻さん。

吾妻さんは、「一生懸命、手塩にかけて果物を作り、収穫したものは全て無駄にしない」ということを大切にしているそうです。少し傷んだものやキズがあるものも、加工して新たな付加価値をつけてロスをなくしていき、できた果実を使い切っていきたい、と話してくれました。



<https://www.muji.com/jp/ja/store/cmdty/section/T50001>



あづま果樹園
<https://gap-fukushima.jp/user/p210029/>





作
つ
て
い
る
人
が
わ
か
る
か
ら
、
作
つ
て
い
る
も
の
も
わ
か
る
。

あかべこ別冊 GAP生産者紹介
ふくしま。GAPチャレンジ

ふくしま。GAPチャレンジ
ポータルサイト
<https://gap-fukushima.jp/>

